

6月2日 茱萸

日に日に気温が高くなってきた。梅雨だから仕方がないが、ジメジメと蒸し暑い日が続く。そんな折、地歴公民科のA先生がこんな話をしてくれた。「中庭のグミの実が色鮮やかでとてもきれいです。光線の関係で実が透き通って見えるので、校長先生、写真を撮ってブログにあげてください。週末は天気が崩れるみたいですから、明日がチャンスです。」

言われるままに今日、昼休みに中庭に行ってみた。なるほどグミの木は見つけたが、あいにくの曇り空。なんとか一枚、カメラに収めることができた。

以前にも書いたが、グミは漢字で「茱萸」と表記する。本来はシュユと読むそうだが、熟す前はえぐみがあることから、「グミ」と呼ぶようになったとか。梅の実も同じように、熟す前の青梅には「アミグダリン（青酸配糖体）」という物質が含まれており、多量に食べると吐き気や下痢、めまいを起こす。梅の実を生で食べることはほとんどないが、甘い香りに誘われて、かじりつくようなことはしない方がよい。どちらも堅い種を作り上げるまでは渋みや毒素で身を守り、熟すことで鳥や動物に果肉を与えて、子孫を増やしている。

人間も年を重ねる毎に円熟していくはずだが、私のように精神年齢が低い者はいつまでも毒気が抜けない。人間としての“核”が固まらないせいか。

